

【論文タイトル】

COVID-19外国人入院診療の実際

【概要】

国際化を背景に在日外国人も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に罹患しているが、本邦でその診療上の課題に関する文献はない。2020年2月からの1年間に岡山大学病院総合内科・総合診療科に入院した、外国人COVID-19患者全5人を対象として、患者背景や言語状況、入院中のトラブルや解決策について診療録から抽出した。

全員が日本語の書字・読字が全く不能であり、うち1人は日常会話も困難で電話医療通訳サービスを要したが、担当医や看護師に加えて、国際診療支援センターや臨床栄養部、精神科などと連携することで隔離解除まで入院継続が可能であった。

COVID-19では本人の希望に沿わない入院や予定外入院のため、通常の外国人診療に比して負担・課題が大きい。特に言語面での制約は、隔離管理下での意思疎通や同意書の取得などの面で障壁となることが明らかとなった。院内組織の連携と、病院を超えた情報共有による柔軟な対応が重要である。

大塚勇輝、萩谷英大、中野靖浩、大村大輔、長谷川功、大塚文男
COVID-19外国人入院診療の実際. 日本医師会雑誌 2021;150(7):1237-1241.

